

令和4年度第6次黒石市総合計画進捗状況のまとめ

第6次黒石市総合計画に基づき、令和4年度に実施した事業の進捗状況について、以下のとおりまとめました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響等により取組が不十分であった事業はD評価、取組を行えなかった事業はE評価としています。

1 自立したまち

(1) 地域コミュニティの活性化で自立したまち(協働)

本分野では、地域住民が主体となり地域の課題を解決することができるように、黒石力(=コミュニティ力)の強化に取り組みました。分野全体の実施状況としては11事業中、A評価が4事業、B評価が4事業、C評価が1事業、E評価が2事業となりました。

特に「黒石市ごみ減量化事業」では、「生ごみ処理コミュニティビジネスモデル事業」を北地区振興対策協議会と継続し、令和4年4月から生成堆肥「環境守りたい肥」の販売を開始しました。事業参加世帯である80世帯から集めた4,858kgの生ごみを処理機で堆肥化し、921kgの堆肥を生成しました。生成堆肥の販売数量としては、1袋5kgの堆肥を118袋販売することができました。分別排出された生ごみは、実質ゼロとなり高いごみ減量効果が示されました。

「地域力(黒石力)向上事業」では、追子野木地区において、令和4年度から追子野木公民館が旧追子野木小学校に移転したため、地区の問題解決に取り組む活動を含め、地区の活動拠点を新しい追子野木公民館とし、様々な事業を展開していくことが重要であるという意識付けを行うことができました。これまで4か年にわたり開催してきた本事業の内容から、今後は、地域の問題解決に取り組んでいる先進地域の事例を学ぶ機会を設け、更なる地域づくりのため、住民の意識高揚を図っていきます。

「市民活動への奨励制度の創設」では、各地区協議会が住みよいまちづくりを目的とした自主的に取り組む活動に対し、黒石市地域のくらしを守る市民活動支援事業補助金を9地区に対して交付することで地域活動の活性化につながりました。今後は、対象経費を整理・拡充し、活用しやすくするとともに、マニュアルを作成し、周知を図っていきます。

(2) しごとづくりで自立したまち(産業振興)

本分野では、基幹産業である農業がさらに魅力ある産業へと成長するために、農産物のブランド化、新品目の導入拡大、生産性の向上、後継者の育成等に取り組みました。また、地域産業の活性化と企業誘致の推進による雇用の場を確

令和4年度第6次黒石市総合計画進捗状況のまとめ

保する取組のほか、魅力ある市内企業の情報発信等に取り組みました。分野全体の実施状況としては13事業中、A評価が6事業、B評価が6事業、C評価が1事業となりました。

特に「くろいし農産物等販売力強化事業」では、コロナ禍の影響が残る中でありましたが首都圏の大手量販店において、市長トップセールスやマスコットキャラクターによるPRイベントを実施し、黒石産農産物・加工品の販売促進に取り組みました。今後は、農産物をさらに首都圏等へ売り込むためのオンライン商談会等を活用した効率的な販売促進活動の実施を模索するほか、生産者が安定供給できる仕組みを構築していきます。

「黒石 IC ロジスティクスクロッシング推進事業」では、進出が確定していた6社のうち新たに1社が操業を始め、エリア内の操業は4社となりました。残りの2社のうち1社が令和5年9月の操業に向け建設工事を進め、もう1社が造成工事を完了しました。また、課題の1つである第一種農地の対応として進めている地域未来投資促進法の基本計画については、青森県の計画に重点促進区域として盛り込む協議をするとともに、先進地として福島県白河市を訪問し、当該法の適用に当たっての課題等を聴取しました。さらに、本事業を進めていく上での参考となる事例として、物流施設の先進地視察を行いました。今後は、引き続き関係機関等から意見を伺いながらロジック戦略第二期を策定していきます。

「人材確保・就職支援事業」では、就職希望の高校3年生を対象とした「企業見学会」「合同企業説明会（ハローワーク主催）」、一般求職者を対象とした「くろいし就職説明会」を実施しました。さらに、将来の人材確保・育成を目的に「黒石市小学生キッズハローワーク」を市内の小学5年生を対象に実施し、働くことへの興味・関心を高めることにつなげました。また、市内企業の魅力発信のため、「黒石市企業ガイドブック」の電子版を作成し、より多くの人にアクセスしてもらえよう、PRチラシを県内の学校や就職支援機関へ設置、黒石市二十歳の集いでの配布を行いました。今後も、若年層をはじめ女性、高齢者、障がい者が地元企業に安心して就業し、健康で快適な生活ができるよう、子供から高齢者までより多くの場面で地元企業や職業について「知る」「見る」機会を引き続き創出していきます。また、企業において経営基盤を支える人材を確保するためには、働き方改革の推進が必須であり、人手不足に悩む企業の人材育成力や採用力の向上に対しても継続的な支援をしていきます。

令和4年度第6次黒石市総合計画進捗状況のまとめ

2 元気なまち

(1) 歴史と伝統を活かした元気なまち(文化)

本分野では「こみせ」などの伝統的建造物や歴史的資産を保存・活用することで黒石ならではの観光資源を活かしたまちづくりに取り組みました。分野全体の実施状況としては6事業中、A評価が3事業、B評価が3事業となりました。

特に「伝統的建造物群保存地区保存活用事業」では、伝統的建造物群保存地区内の建造物の修理に対し補助金を交付するとともに、保存地区内の防災設備の維持管理に対する支援を行いました。今後も、伝統的建造物群保存地区内の経年劣化の著しい物件を保存及び活用するため、所有者と連携しながら、物件や防災設備の維持及び管理を支援していきます。

「黒石市歴史的景観形成計画に関する事業」では、街なみ環境整備事業地区(中町、横町、浜町、前町及び上町)を対象とした「こみせ」や建築物等の修景に係る経費の助成を1件行い、地域住民の理解と協力のもと、歴史的街なみを守り育みながら魅力ある景観の形成を推進しました。今後も、対象地区に対して事業制度の広報活動をするとともに、所有者とは、本事業を活用した「住宅」や「こみせ」の改修等の意向を確認して実施していきます。

(2) 新たな拠点で人がにぎわう元気なまち(環境)

本分野では、中心市街地の活性化のため、新たな拠点の整備や、公共交通網の利便性向上に取り組みました。分野全体の実施状況としては5事業中、A評価が3事業、B評価が2事業となりました。

特に「公共交通ネットワークの構築」では、市内における持続可能な地域公共交通ネットワークの構築に向け、路線バスやぷらっと号の再編を行いました。また、バスに代わる高齢者等の交通弱者の買物、通院を支えることを目的とする予約型乗合タクシーの実証運行について、増便や乗降場所の追加等を行い、実証運行期間を延長しました。今後は、時刻表やチラシの配布、ホームページへの掲載等により周知を徹底するとともに、予約型乗合タクシーについては、これまでの利用状況や地域住民の意見を踏まえ、乗降場所や運行ダイヤを見直し、改めて検証していきます。

「市立図書館の整備」では、市立図書館の新築工事が完成し、令和4年7月1日にオープンしました。その後は図書館利活用促進事業を行い、年間入館者数が目標の36,300人を超える44,318人となりました。今後も、黒石市立図書館運営計画に基づき、蔵書の充実等に努めるとともに市立図書館の利活用促進を図っていきます。

令和4年度第6次黒石市総合計画進捗状況のまとめ

(3) 移住人口・交流人口の拡大で元気なまち(観光)

本分野では、3年ぶりに開催された黒石ねぷた・黒石よされなどの祭りへの支援や、湯治場として栄えてきた黒石温泉郷への旅行者の受け入れ態勢の整備をするとともに、インバウンドの受け入れ態勢強化による交流人口の増加に取り組みました。分野全体の実施状況としては20事業中、A評価が12事業、B評価が7事業、C評価が1事業となりました。

特に「インバウンドへの対応による交流人口の増加」では、オーストラリア出身の国際交流員を令和元年7月から継続して任用し、市内事業者からの受入体制相談などの外国人誘客事業の支援や、外国人目線でのSNSによる情報発信のほか、ボランティアガイドによる英語講座を2回実施、市内事業者のメニュー翻訳等を実施しました。また、保育施設英語交流を2施設延べ3回実施するなど、異文化理解のための交流活動に取り組みました。今後も、引き続き市内の事業者への受入体制支援を継続するほか、将来にわたって国際的に開かれた市になるよう児童・生徒への異文化紹介など活動の幅を広げていきます。また、市内の小学生への英語教室等外国への理解を深める活動、国際化人材育成への支援や海外への黒石産品への輸出などの経済交流の誘客を図っていきます。

「黒石温泉郷の旅行者の受け入れ態勢の整備」では、ハード面においては津軽こけし館トイレ改修工事を行い、ソフト面においては伝統芸能披露活動支援事業として伝統芸能ディナーショーの支援を行いました。また、黒石温泉郷高付加価値化実証実験として泊食分離に向けた課題整理に取り組みました。今後は、観光庁の地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業を活用し、官民一体となった観光施設の更新に取り組みます。

「街なかイベント支援事業」では、中心市街地で開催されるイベントの主催者に対しその費用の一部を補助するほか、人的支援等による新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、にぎわい創出と交流人口の拡大につなげました。黒石ねぷた、黒石よされ、黒石こみせまつり、黒石りんごまつりなど新型コロナウイルス感染症の影響により参加者数等が急激に落ち込みましたが、これらは市民に定着した季節のイベントであるため、今後も継続実施できるように補助金や人的支援の内容について、主催者のニーズにあった内容となるよう協議を継続していきます。

令和4年度第6次黒石市総合計画進捗状況のまとめ

3 安心なまち

(1) 子育て支援と教育環境の充実で安心なまち(子育て・教育)

本分野では、妊娠・出産期からの切れ目のない支援を目指し、安心して子どもを産み育てやすい環境を整備するとともに、子どもたちの希望をかなえるための「学び」の環境を整える取組を進めました。分野全体の実施状況としては29事業中、A評価が18事業、B評価が8事業、C評価が1事業、E評価が2事業となりました。

特に「子ども家庭対策事業」では、中学生までの医療費自己負担分を無料とし、対象年齢を県内と同レベルまで引き上げることができました。今後は、さらに対象年齢の拡充を実現し、子どもを育てやすい環境づくりに努めていきます。

「算数・数学UPる先生事業」では、算数・数学の学習をサポートするUPる先生を、小学校には4校に5人、中学校には2校に4人配置し、ティームティーチングにより、児童生徒一人ひとりに対してきめ細かな指導を行いました。今後は、増員配置、任用期間を見直し、算数・数学を中心とした他教科を含めた学習支援を認めることにより、UPる先生を学校にいる「いつもの先生」とし、より児童生徒の指導に関われるようにしていきます。

「読書活動の推進」では、令和4年7月1日に市立図書館をオープンし、ほるぷ子ども館とともに定例のおはなし会やおすすめ本の展示などを実施しました。市立図書館では図書館利活用促進事業として、開館時間の特別延長や市内学校への出張説明会、読み聞かせ研修会などを行い、利用促進を図りました。また、ほるぷ子ども館では山形公民館と連携し秋のおはなし会の共催や団体貸出などを行いました。今後は、第3次黒石市子ども読書活動推進計画に基づき、市立図書館が中心となり市内の教育施設や読書団体と連携を図りながら子どもの読書活動推進を図ります。

(2) 高齢者福祉の充実で安心なまち(福祉)

本分野では、より多くの高齢者が可能な限り自立した日常生活を送れるように、健康で安心して暮らせるまちづくりを進めるとともに、地域包括ケアシステムの充実を図りました。分野全体の実施状況としては7事業中、B評価が5事業、C評価が2事業となりました。

特に「地域包括ケアシステムの充実」では、黒石市地域ささえ合い活動促進事業を周知し、身近な地域における住民同士での高齢者の日常生活上の助け合い活動や交流活動の支援を行いました。また、高齢者の生活課題を住民同士で支援する体制の構築と、日常生活上の助け合い活動や交流活動が広がることを

令和4年度第6次黒石市総合計画進捗状況のまとめ

目的に研修会を行いました。さらに、市内の調剤薬局に対し、介護予防の取組に対するアンケート調査を実施し、高齢者の活動の場での活用について検討し、実際に住民主体の活動団体と薬剤師とのマッチングを行いました。今後は、各々の地域において、住民同士の助け合い活動に取り組む団体が増え、活動が市内各地に広がるよう引き続き周知と支援を継続していきます。

「高齢者地域見守り事業」では、民生委員や町内会等と適切に連絡を取り合い、情報共有に努めたことで延べ対象者11,733人のうち、97.0%の方々に訪問での見守りを行うことができました。今後も、事業委託先である地区協議会を始め、民生委員等と連携し、単身高齢者が地区で安心して生活できるよう見守りを継続していきます。

(3) 健康づくりの推進で安心なまち(健康・福祉)

本分野では、黒石市健康都市宣言に基づき、市民一人ひとりの健康的な生活習慣づくりや心の健康づくり、スポーツを通じた健康づくりなどを促進する取組を進めました。分野全体の実施状況としては16事業中、A評価が2事業、B評価が9事業、C評価が4事業、E評価が1事業となりました。

特に「訪問指導」では、疾病の発症及び重症化予防を図るため、がん精密検査対象者及び糖尿病性腎症等の重症化予防対象者に対し、受診勧奨を実施するとともに、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、個々に応じた保健指導を実施しました。今後も、未受診者と治療中断者への受診勧奨を継続するとともに、疾病の発症及び重症化予防対象者へ個々に応じた保健指導を継続していきます。

「特定健診」では、対象者6,353人に対し2,568人の受診で、受診率は40.4%(見込み)となりました。今後は、特に若い世代の受診者数を増加させるため、AIによる分析を活用した未受診者への受診勧奨事業により受診率の向上を目指すとともに、医療機関との連携を強化し、受診勧奨方法等について検討していきます。

「学校施設開放事業」では、市内4小学校2中学校で学校施設開放を実施し、延利用回数が1,816回、延利用者数が29,218人となりました。また、令和4年10月から、新たに中郷中学校が学校施設開放校に加わったことで、市民のスポーツ活動の環境整備を図ることができました。今後も、市内4小学校2中学校において、学校施設開放事業を実施することで、市民が継続してスポーツ活動を行える環境整備に取り組んでいきます。

(4) みんなが暮らしやすい安心なまち(安心・安全)

本分野では、地震や豪雨による災害、事故などの危険から市民の生命と財産

令和4年度第6次黒石市総合計画進捗状況のまとめ

を守るため、ハード・ソフト両面から取組を進めて危機管理や防災体制の強化等を図りました。分野全体の実施状況としては15事業中、A評価が1事業、B評価が13事業、E評価が1事業となりました。

特に「自主防災組織の設立と支援に関する事業」では、地域住民による自主防災組織結成の推進及び活動の活性化を図るため、各地域の自主防災組織に対する支援事業として「防災対策事業」と「防災士養成事業」の活用を推進し、地域防災の確立を図りました。今後も、地域の自主的な防災活動を促進するとともに、自主防災組織のカバー率100%を目指します。

「弘前圏域空き家・空き地バンク」では、弘前圏域内の空き家・空き地の有効活用を目的に、空き家・空き地バンクに登録し、当該バンクHPや全国版空き家バンクに情報公開しました。今後は、各種イベントで弘前圏域空き家・空き地バンク協議会や当制度のPRを行い、利用者数や登録者数の増加を図るとともに、令和5年度新規事業である物件登録者への奨励品等の情報を宅建業者や物件所有者に広く発信していきます。

「総合的な防災体制の確立」では、東地区において総合防災訓練を実施し、市民の防災意識の高揚及び危機対応能力の向上を図りました。今後は、近年の災害に対応した訓練メニューを取入れるなど新たな総合防災訓練の実施を検討します。